

コミュニティ・スクールにおけるPTA活動を考える ～みんなの子どもをみんなで育てる～

世田谷区立給田小学校 学校運営委員会通信

平成23年度 第5号
平成23年11月17日
世田谷区立給田小学校
学校運営委員会
委員長 井上健

議題

1. 学校長より
 - ・職員会議の報告
 - ・11月18日長浜市立南郷里小学校視察について
 - ・創立50周年にむけて
2. 副校長より
 - ・地域防災について「避難所運営訓練」の概要
3. 単P研修会を振り返って

出席者

井上、若林、土屋、多田、
程原、渡邊、鈴木、土橋、
片山、鶴岡、安部、
前運営委員(通信編集担当)
清水さん
國學院大學教授
夏秋英房 先生

10月20日、校長室にて第6回
学校運営委員会が行われました。

今回は、國學院大學教授で放送大
学客員教授をされている夏秋英房先
生と前委員の清水啓子さんがオブザー
バーとして同席しました。

土橋校長より、本で行われた放送
大学の取材について説明があり、夏
秋先生のご挨拶がありました。

次に、職員会議の報告があり、世
田谷区全体で、平成24年度より月に
1度、土曜日に授業が実施される方
向で検討が行われていること(原則
として第2土曜日、振替はなし)に
ついて説明がありました。「世田谷
区の方針をうけて、みんなで知恵を
だしあい、より良い教育課程を作っ
ていきたい」(校長)とのことでした。
続いて、11月18日に長浜市立南郷
里小学校が視察に来ること、創立50
周年の記念式典・祝賀会が10月6日

(土)に決定したこと、の報告があ
りました。

次に、片山副校長から11月5日に
予定されている避難所運営訓練につ
いて「今年度は、夜間や学校休業日
を想定し、避難所の開設や運営を構
成員の方を中心に実施します。その
ため、地域住民の参加はあります」と
の説明がありました(詳細は另頁)。

最後に、10月17日(月)に行われ
た単位PTA研修会を振り返り、意
見交換が行われました。学校ポラン
ティアに対して肯定的な意見だけだ
なく、否定的な意見や消極的な意見
もあったことなどが話題となり、
「そういうことを言ってくれる人を
大切に。学校として、何かの機会に
にそのことに触れ、誤解や不満など
を解消するよう努めることが大事」
(委員長)であることを確認しまし
た。

給田小CSが放送大学の取材を受けました

みなさんは放送大学をご存知です
か。放送大学とは、テレビ・ラジオ
で学ぶ通信制大学です。その放送大
学の講座で給田小の地域運営学校の
取り組みが紹介される予定です。

来年度から放送予定の「地域社会
の教育的再編」という全15回の講座
のうちの「地域社会と学校」「開か
れた学校」の動向と展望」という
回で、学校の運営に地域住民が参画
することになってきた過程と現状を
考える題材として、給田小のCSが
取り上げられます。



古民家清掃の様子を撮影中

撮影が行
われた10月
20日は、雲
が多く肌寒
い日でした
が、給田の
子どもたち
はいつもの
ように体操
着にはだし
で走り回っ
ていました。カメラクルーは、元氣
な子どもたちの姿を皮切りに、古民
家清掃(毎月第3木曜日に6年生と
千歳民俗資料保存会の方たちが行っ
ています)、授業風景、学校運営委
員会の様子を撮影し、この講座の担
当講師である夏秋先生による土橋校
長・井上委員長・給田小子どもばや
しの伊藤弘康先生・前学校運営委員



体操着・はだして遊ぶ
子どもたち

子どもた
ちがカメラ
クルーの後
をついてま
わり、思う
ように撮影
ができない
場面もあり
ましたが、
制作担当の
藤井雅弘ディ
レクター

(NHKエデュケーショナル)は
「久しぶりに生き生きとした子どもた
ちの姿を見たような気がします。校
長先生をはじめ、先生がたや地域の
方がたの思いにあふれた学校づくり、
地域社会づくりが感じられます」と
話されていました。
また、夏秋先生は、子どもたちと
一緒に遊ぶ先生がたを見て、「こん
なに子どもと遊んでくれる先生は今
時、珍しい。うらやましい限り」と
言われていました。

この講座は、平成24年4月から放
送される予定です。給田小がどのよ
うに紹介されるのか、また、給田小
の地域運営学校は何を目指している
のか、機会がありましたらぜひご覧
ください。

教えて！ 井上先生

10月17日 給田小の単位PTA研修会が「地域運営学校についての理解を深めよう みんなの子どもをみんな育てるために」をテーマに開催されました。研修会では井上先生の「みんなの子どもをみんな育てる」コミュニケーション・スクールとPTA活動」と題する講演があり、その後、11のグループに分かれて意見交換をしながら理解を深めていったとのこと。そこで今回は、研修会の様子や参加者から寄せられた質問について、お話をうかがいました。



Q 研修会には17名が参加したとのことですが、当日の雰囲気はいかがでしたか？

A 多くのみなさんにお集まりをいただき、感謝しています。研修会の企画運営は学校代表委員会のみなさんがしてくださったのですが、教職員と保護者が「みんなの子どもをみんな育てる」という観点で意見交換できるよつになったこと、それ自体が地域運営学校(CS)に指定されて5年目の成果だと思っています。グループ・ディスカッションも、和気あいあいとした雰囲気。普段はなかなか言えない(聞けない)疑問や意見が出てきて、有意義だったと感じています。

Q 講演はどんな内容だったのですか？

A 基本的には、いつも「教えてー井上先生」で話していることと同じです(笑)。ただ今回は、9月にPTAが「学校ボランティアの現状と保護者の意識」に関するアンケート調査を実施しているの、その整理と分析を加えました。

簡単に紹介すると、給田小は従来から保護者のボランティア活動が活発ですが、調査からボランティアに積極的なのは全体の3割であることがわかりました。ただし、消極的な理由をたずねると「仕事をしていたくない」「子どもが小さくてできない」が多く、やりたくてもできない現実があるようです。保護者全体に「今後、やってみたい学校ボランティア」をたずねると、例示した12の活動のうちの5つは「ゼミ、やってみたい」と「機会があれば、やってみたい」の合計が7割に達しており、みんなの子どもをみんな育てるための素地はできていると言えるのではないのでしょうか。それぞれの事情に配慮し、無理なく活動を継続するためにはどうすればよいかを考えていくことが大切ですね。

Q あるグループで「学校ボランティアの大切さが言われるが、例えば、保護者が給食補助のボランティアをする」と、かえって6年生が1年生の世話をするという活躍の場を奪うことになるとの、疑問を投げかけた方がいらしたようです。その他にも「ボランティア活動が行き過ぎているのではないか」という意見もあったと聞きました。井上先生はどのようにお考えでしょうか。

A 確かに、ボランティア活動を強制するようでは本末転倒ですし、ボランティアなのだからやりたいことをすればよいということでは教育活動は成り立ちません。事実確認のため、私からおたずねしますが、

「保護者による給食補助ボランティア」が行われる以前は「6年生が1年生の給食の準備を手伝っていた」ということなのでしょうか？

Q 1年生が給食の準備を始める時間は4時間目の授業中ですので、「保護者による給食補助ボランティア」が始まった一昨年の時点では6年生が手伝っていたということはないのでしょうか？…副校長先生、どうなんでしょうか？

A (片山副校長) 以前は1年生で給食が始まる時期が現在よりもかなり遅く、また食事の時間帯は他の学年と同じだったようです。その頃は6年生が準備を手伝っていたのかもしれません。現在は状況が異なるので、保護者の方に1年生の給食開始から1週間、お手伝いいただき、とても助かっています。6年生が1年生の世話をする機会ですが、例年4月(今年は1学期中)は朝早く登校して、1年生のお世話係をしてきています。その他にも、最上級生としての、委員会・鼓笛・地区班の班長など活躍の場はたくさんあります。

Q なるほど。ただ、先のような疑問やボランティアが行き過ぎているのではという意見が出るということは、考えながらボランティア活動を進めなくてはならないということですね。

A そうですね。コミュニケーション・スクールは保護者がボランティアをする学校とイコールではありません。講演でPTAのアンケート結果を紹介し、グループ・ディスカッションでも話題になりましたから、CSとボランティアを結びつけてイメージしてしまうのも無理からぬところですが、保護者のボランティアはCSの1側面に過ぎません。ビジョンにあるように、「自分ができることをする機会が増える」ことは大事ですが、できないのに無理をしては元も子もありません。当日の質疑応答でも話しま

したが、活動に参加できなくても、関心をもって見守ることはできますよね。学校行事を欠席しても、子どもに「どつたつた」と聞いてみたり、買い物をする時、地域の様子を気にかけることもできるでしょう。そんなちょっとした気遣いや視点の変化が「コミュニケーションの学校をつくっていく力になるはず」です。

Q 先生が気になった質問や意見は他にありますか？

A 後日、「研修会に参加した感想」を読ませていただいたのですが、その中に「今まで通り」「ごく普通のことややること」が地域運営学校であるというところだったので、このよつに大きく取り上げなくともこの学校は大丈夫だと思う。今まで通りにやっていきたいと再認識した」というものがありました。こうした感想が寄せられるということは、私がお話したことが伝わっている証拠ですから、うれしくなりました。

ただ、すべてが「今まで通り」ではないけません。私が強調したいのは、「今までしてきたことの中にCSらしいところ」がたくさんあるはず。だから、これまでの活動をCSの視点で見直し、評価していくことが重要。そうすれば、いたずらに仕事を増やすことなく、CSの活動を広げ、深めていけるよつがある」と感じています。

Q 最後に、今後のPTA活動への期待をお聞かせください。

A 給田小のPTAは、さまざま優れた活動を活発に展開しています。そして、そうした活動はCSがめざすところとも一致します。そうした意味で、PTAの普段の活動をCSの視点からも価値つけていくことが重要なのではないかと考えています。先日の研修会をその第一歩として、PTA会員のみなさまには「CSにおけるPTA活動」をさらに考え、深めていただければと願っています。

給田小・避難所運営訓練 ～避難所の自治運営～



校門開錠の確認

11月5日(土) 給田小学校で「避難所運営訓練」が行われました。

東日本大震災を教訓とするため、平成23年度より区主催の防災訓練は「地区防災訓練」と「避難所運営訓練」の二本立てとなり、各訓練の目標がより明確になりました。

この日は、運営本部となる給田町会・給田西住宅自治会役員と、給田小PTA本部役員、給田小を支えるお父さんの会「YAMATO」のみなさんが校庭に参集し、避難所開設・運営訓練を行いました。

最初に全員で、最寄りの給水地点(杉並区立昭栄公園)と震災対策用井戸の配置を確かめ、また、夜間・休日を想定し、校門及び防災倉庫の開錠をしました。

次にランチルームで4つの班に分かれて運営内容を確認し、その後チームごとに行動訓練を行いました。

① 総務・情報担当
避難者カード記入台の設置、記入及び避難者情報提供の仕方、無線機の実操作練習

② 避難所担当
体育館へのブルーシートや毛布の搬入、居住空間の設置、発電機の実操作練習
③ 救護・衛生担当
患者搬送の際の人員確保の方法、校庭の仮設



総務・情報担当



避難所担当



救護・衛生担当

トイレ設置場所(マンホールトイレ)の組み立て練習、排水方法の確認
④ 給食・物資担当
物資の配給方法、炊き出し場所の確認、発電機とバーナー着火の操作練習

訓練終了後はランチルームに戻り、実際に行動しての感想や意見交換を行いました。「繰り返し訓練することで運営マニュアルをしっかりと身につけていきたい」「実際にやってみると機械の操作は難しいと感じた。もっとたくさんの方が操作できるようにしておく」とよい、「給田小が避難所になった時の設備を知ることができた」など、参加者はそれぞれにこの訓練の重要性を感じたようでした。



給食・物資担当

最後に、烏山総合支所地域振興課より「大きな災害が起きてしまうと、最初の3日間には消防・救急隊が避難所まで向えないのが現実です。避難所運営の主体は被災者自身です」との話がありました。

今回初めて災害用マンホールに仮設トイレを組み立て、実際に排水をしました。災害の規模にもよりますが十分な設備とはいえません。ご家庭でも簡易トイレや使い捨てトイレの用意が必要で、他人任せではなく「私はこれができるます!」という一人ひとりの協力が不可欠です。まずは、各家庭でできる防災活動を再点検してみてください。

総合的な学習の時間「6年生 続・地域ボランティアに取り組もう」

前号、前々号と連載してきました6年生の「地域ボランティアに取り組もう」も今回紹介するグループで最後となります。



「幼稚園」グループは園児の登園時にあいさつをした後、一緒に遊んだり、折り紙をプレゼントして交流しました。かわりの中で心を通わせる喜びを感じていました。

小岩井聡 副園長の感想

5年生の時にも、幼小交流で幼稚園に来てくれていますが、その時は臨む姿勢も違い、とにかく園児を喜ばせるために一生懸命取り組んでくれました。今回は、年少児と関わっていましたが、園児たちをたたくかわいがるのではなく、「こんな遊びもできるよ」など、興味を持たせて、やりたい気持ちを引き出している場面も見られました。全員に折り紙を折ってきて、プレゼントしてくれたり、何を話せば喜んでくれるか、一生懸命に絵本選びをしたりと、準備をしっかりできてくれました。園児たちも自分たちのために、お兄さん・お姉さんが来てくれたことをとても喜んでいました。

「我が町良い所探し」グループは、給田小の良い所について話し合い、ポスターを作成・掲示しました。改めて気づく地域とのかかわりや伝統のすばらしさに心打たれ、最高学年としての自覚と責任を感じました。

エコ

「エコ」グループは、節電・節水のポスターを作成・掲示しました。また、全校児童にPRをする中で、活動の広がりを考えました。

寄付・募金

「寄付・募金」グループは、老人ホームへの車いすや学校の一輪車購入のため、プルトップ・ベルマークの回収のポスターを作成・掲示しました。また、全校児童にPRをして、予定日以外も毎朝、正門や北門で回収箱を持って集めました。多くの家庭の協力への感謝と活動の充実感を得られたようです。



ボランティアとは、行動のことで示すのではなく、「役に立ちたい」という心そのものがボランティアなのだと思えました。

幼稚園の皆さんでくれた時、みんな笑顔になっていたの、苦勞もあつたけど乗りこえられたのがとてもうれしかったです。これからも近所で行われるボランティアに協力して、みんなが笑顔になれるように努力したいです。(児童の感想)

「我が町良い所探し」「エコ」「寄付・募金」の3グループは、ボランティア活動内容のPRを烏山商店街に放送してもらい、地域への活動の広がり、つながりを求めて活動を継続させていきます。

子どもたちが走ります



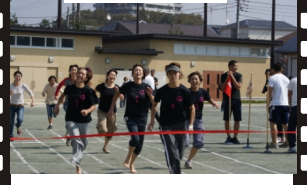
先生も走ります



お父さんも



バレー部ママも



第61回 給田町会大運動会 給田青穂会 会長 田中邦治

今年も10月10日(月) 体育の日、町会大運動会が秋晴れ季節外れの夏日となりました。のもも盛大に開催されました。今から約30年前、私が小学生の頃の給田は、まだまだ畑が多く人口も現在の半数にも満たなかったと思います。その頃の町会運動会自身内だけの運動会でした。祖父が町会役員、父は青穂会役員、伯父は成城交通安全協会警備を、伯母は婦人部で売店に、そして私は、母、妹、いとこ、はとこと一緒に競技に参加していました。いやいや懐かしいです。

そんな町会運動会も年を重ね、昨年めでたく還暦をむかえました。昔はこの町会でもやっていた運動会ですが、今も続いているのは少数の町会だけになってしまったかもしれません。一時は子どもの参加も少なくなり継続の危機を感じましたが、近年は学校運営委員会の働きかけもあり、多くの子どもたちやご家族、先生がたに参加いただき、にぎやかな運動会が戻ってきました。

小学校の校庭を普賢段は走ることのない方たちが、笑顔いっぱい走っている「地域の小学校」にたまたまの日を私たちは大切に、来年もまたみなさんのご期待に添えるよう努力してまいります。来年は、10月8日(月)に烏山小学校で開催します。

今から予定に入れておいてください(笑)。おいてください(笑)。

第100回の開催を目標に頑張りますよ。

国士舘大学柔道部も



手をつないで走ります



校長先生、絶好調!



給田青穂会のみなさま



お疲れさまでした

展覧会開催のお知らせ

日時 11月17日(木)～19日(土) 9:00～16:00
場所 給田小体育館・クラブ開放室(体育館脇)・クラブ開放室前廊下

芸術の秋 今年はやや年に一度の展覧会が開催される年です。

子供たちが思いをこめて作った作品をゆつくりご覧いただきたい、そんな思いから今回は鑑賞日が3日間となっています。また、土曜日だけでなく、17・18日の児童鑑賞時間にもご覧いただけるようになりました。保護者だけでなく地域の方もぜひ子どもたちと一緒に作品を鑑賞していただき、たくさん声をかけてあげてください。

全校共同テーマ作品は、来年度50周年を迎えるにあたり「給田小50周年前夜祭」祝い・祈り」をテーマとし、3月の東日本大震災での出来事を考え、平和への気持ちも込めた作品となっております。

今年は見に来てくださった方がたに作品の説明をしたり、たくさんの方に褒められて喜んでくれる子どもたちの姿がご覧いただける展覧会になりそうです。

マルチーズ♂
5歳
お出かけが大好き。出掛ける支度をしているとすぐに鳴きつけ、玄関を開けると膝をうついてサッと筆を先回り！
甘えん坊で臆病、すぐに膝の上に乗ってきます。



今月のわんこ 杉田ペロくん

あとがき

爽りの秋の季節となりました。給田小の学区域では、まだ多くの畑を見ることが出来ます。北烏山や土屋敷林には、郷土野菜「下山王蔵白菜」発祥の地として石碑があり、隣の畑ではまさに白菜が収穫の時を迎えています。

3・11の原発事故以降、放射性物質が各地に降り注ぎ、世田谷では原発事故の影響以外でも、弦巻に続き八幡山で、高濃度の放射性物質が検出されるなど不安が募るころです。国内で生産された農産物は、出荷前に検査が行なわれ安全を確認してから食卓に届けられます。食の安全について懸念されておりますが、以前より私たちが食している物の実態は、問題視されておりません。

先月、農業者団体で横浜港へ視察に行きました。話には聞いておりましたが、輸入された農産物は輸出国で塩漬にされ、木箱やブルーのポリバケツに入れられ、台風で半分割られたビニールテントの中で太陽の熱や風雨にさらされたまま保管されていました。ポリバケツの蓋は自由開閉できず身も取り出せません。原産国とは「商品の中身において実質的な変更の行為をした」と定義しているそうです。視察当日も他県ナンバーの大型トラックにポリバケツを積み込み取付中でした。それが産地に引き取られ加工され郷土特産品として売り出されていると聞きます。また、海外からの輸入食品の大半は、書類審査だけです。

「食」とは「人」が「良く」なること。給田小地域を散策し、秋の夜長、家族と食の安全を考え、地域の大切さについて話しては、いかがでしょうか。

学校運営委員

土屋 俊幸

